



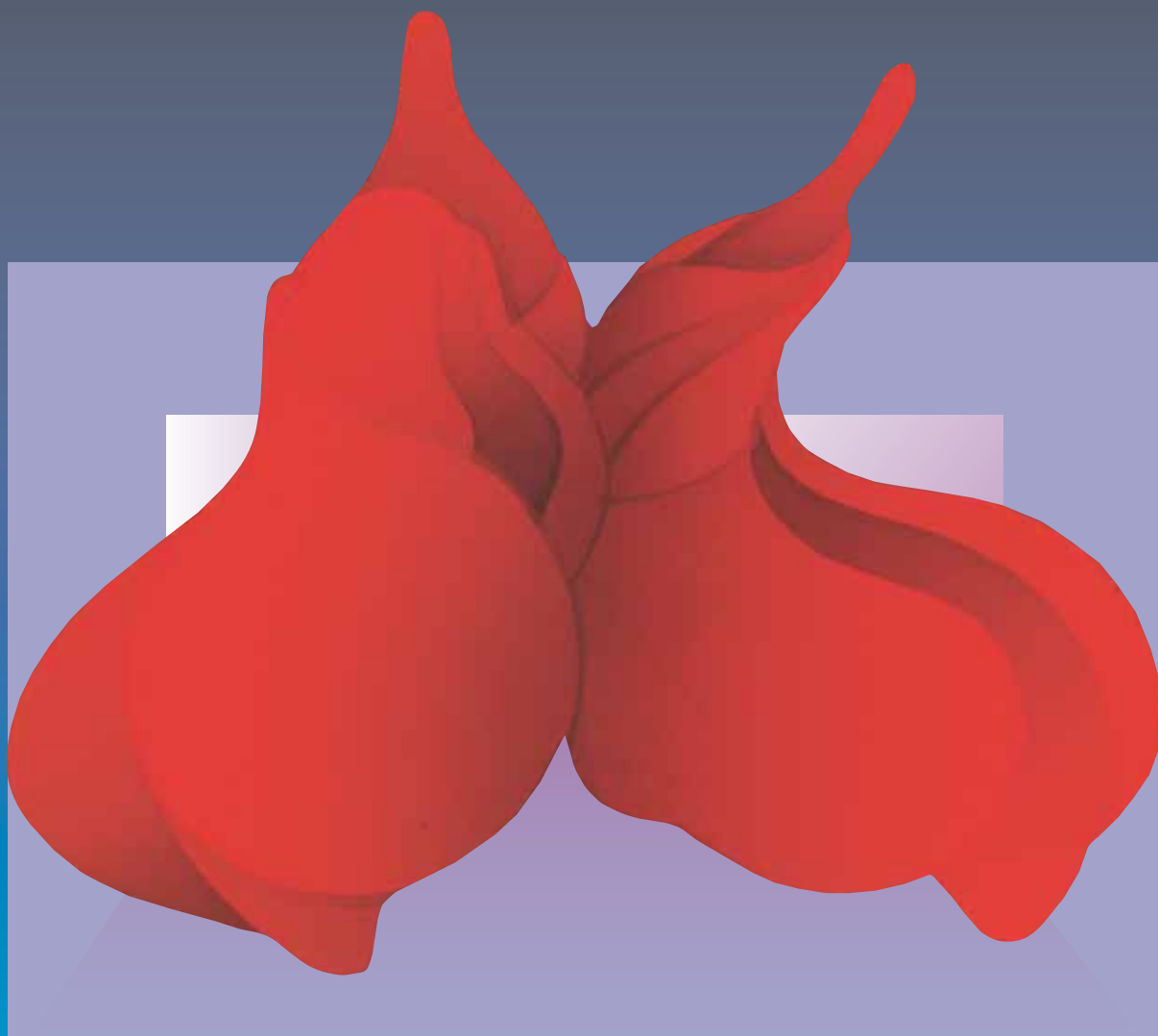
豊中市国際教育推進プラン

平成 18 年度～20 年度

(2006 年度～2008 年度)

つなぐ・つながる・つちから

未来への行動力・豊中型国際教育の提案



豊中市国際教育推進協議会・豊中市教育委員会

つぶやき

さまざまな取組みは子どものつぶやきからはじまります・・・

大きな声が出えへん。
言わないんじゃないくて、
声が出なかってん。

あいあいルームに
来ると、同じ帰国の子
がいてほっとするよ。

私が一番思ったこと
は、自分が韓国人に生ま
れてきてよかったなあ～
ということです。

ぼくは、日本で日本
人の中で迷子にな
っている・・・

未来をつくる

日本語は話せるんだ
けど、授業中に先生が説
明していることの意味
がわからないんだよ。

大学生になってみて
改めてハギハッキョの本
当の意義を感じました。

目次

つぶやき	・・・	①・②
つどう そして、つながる	・・・	③・④
つながる とよなか	・・・	⑤・⑥
つちかう ー国際教育推進プランー	・・・	⑦・⑧

ESDの視点にたった世代間の学び	・・・	⑨・⑩
持続発展教育（ESD）を未来へ	・・・	⑪・⑫
未来への行動力		
豊中型国際教育の提案	・・・	⑬・⑭

つどう そして、つながる・・・

目の前の子どものつびやきに、突き動かされるように、学校・保護者・地域・・・などさまざまな角度での取組みが豊中市内で始まりました。

少数点在する子どもたちのために、学校の内外で、韓国・朝鮮にルーツをもつ子どもたち、帰国の子もたち、渡日の子もたち・・・がつどい、安心して仲間とつながることのできる場が充実してきました。安心してつどい、つながる場を得て子どもたちが、日本の学校や社会で過ごしていくエネルギーをためていけるように。

一方、学校ではマイノリティーになってしまう子どもたちが、学校でものびのびと過ごせるよう、学級づくり、学校づくりに工夫をかさねてきました。



帰国・在日外国人を支える地域づくり

とよなか国際交流協会

市民の主体的で広範な参加により、人権尊重を基調とした国際交流活動を地域からすすめている。

外国人の生活相談を中心に外国にルーツをもつ子どもへの母語教室、学習支援をはじめ、地域の小学生が外国人と学びながら地域で世界を知っていく行事や市内小学校の外国語体験活動事業など世界とつながる多文化共生社会をつくる多彩な活動を活発に展開している。

帰国児童生徒教育

帰国教室

(旧)文部省の帰国児童教育の受け入れ推進地域の指定を受けた一環として帰国児童生徒の学習や学校生活への円滑な適応の推進を図るために昭和58年(1983年)に開講され、現在に至る。

学校

第十一中学校

帰国生徒・外国にルーツをもつ生徒、外国での生活を体験、もしくは外国の文化に触れたことのある生徒が多い。また国際情勢、文化などに興味関心の高い生徒も多いため、総合的な学習の一環として国際教育に取り組む。中高協働授業は、本市初の試みである。

上野小学校

帰国児童受け入れセンター校として40年に近い歴史をもつ。多くの帰国児童が在籍し、本市国際教育をリードする実践を行っており、「あいあいルーム」は帰国児童・保護者の安心の場となっている。

在日外国人教育

渡日児童生徒相談室

渡日児童生徒の学校生活への適応に向けて、通訳派遣や日本語習得支援のために日本語指導者を派遣。中国からの帰国者の方々が増えた平成10年(1998年)南桜塚小学校に開設。現在は、庄内少年文化館に場所をうつして「国際教室」として、学習支援も行っている。

豊中市在日外国人教育

豊中市在日外国人教育基本方針にもとづき昭和56年(1981年)に発足。本市の担当者会では、在日外国人教育に関する研修や各校での在日外国人児童生徒の把握に

推進協議会・担当者会

在日外国人教育推進のための連絡・調整を行い、市内外国人教育の方向づけをしている。関する啓発を行う。

(市教研)

帰国児童生徒教育・国際教育研究会

豊中市における帰国児童生徒、外国人児童生徒の実態をふまえた国際教育の進め方を研究。帰国児童生徒受け入れマニュアルなどを作成し、各校での帰国児童生徒の受け入れに大きく貢献した。



(市教研)

多文化共生と在日朝鮮人教育研究会

多文化共生及び在日韓国・朝鮮人教育の実践研究の柱となる。ハギハッキョの取組みは来年で30年を迎える。

韓国・朝鮮にルーツをもつ児童生徒の教育

つながる とよなか

子どもたちのつばきや思いから始まった学校・地域の取組みは、携わるそれぞれの人の思いや情熱とともに、大きく豊かに育っています。

それは、とよなかのたからもの。これからも子どもたちや市民のみなさんを安心という名のネットワークで見守っていきます。

帰国児童生徒相談関係

窓口→人権教育企画課

帰国教室

小学生→上野小学校

中学生→とよなか国際交流センター

保護者会→上野小学校 市教研

→帰国児童生徒教育・国際教育研究会
(代)第十四中学校

平成20年度(2008年度)現在

※年度によって代表校はかわります



国際理解教育関係

うへのワールドミュージアム

→上野小学校

おまつり地球一周クラブ

→とよなか国際交流センター

豊中市国際教育に関する情報資源の一覧です。知りたい情報は、各学校・団体へご連絡ください！

リソース リファレンス



関係資料の所蔵など

民族衣装や民族遊具の貸し出し

→とよなか国際交流センター

外国語絵本・外国語紹介・日本語教材・JSL教材など

→とよなか国際交流センター

上野小学校・渡日児童生徒相談室



在日外国人教育関係

ハギハッキョ・ハギハッキョキャンプ
・ことばと遊びのつどい

→豊中市在日外国人教育推進協議会
(代)上野小学校・第十一中学校

平成20年度(2008年度)現在

市教研→多文化共生と

在日朝鮮人教育研究会
(代)北丘小学校

平成20年度(2008年度)現在

※年度によって代表校はかわります

渡日児童生徒相談室・国際教室

→人権教育企画課

子ども母語・サンプレイス

→とよなか国際交流センター

とよなか国際交流協会

TEL:06-6843-4343

FAX:06-6843-4375

E-mail

toyonakakokuryu@toct.zaq.ne.jp

人権教育企画課

TEL:06-6858-2583

FAX:06-6846-9649

E-mail

jinkenkyou@city.toyonaka.osaka.jp

上野小学校

TEL:06-6848-4021

FAX:06-6846-9650

第十一中学校

TEL:06-6849-3600

FAX:06-6846-9645

第十四中学校(市教研:帰国児童生徒
教育・国際教育研究会・代表)

TEL:06-6848-6403

FAX:06-6846-9646

とよなか市民環境会議アジェンダ21
(ESDとよなか)

TEL:06-6863-8792

FAX:06-6863-8734

E-mail

ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp

北丘小学校(市教研:多文化共生と在日
朝鮮人教育研究会・代表)

TEL:06-6872-0666

FAX:06-6832-9328

国際教育推進プラン

平成 18 年度～平成 20 年度
(2006 年度～2008 年度)

つちかう

さらに・・・

一つひとつの取組みがより充実したものになるように。

一つひとつの取組みがさらなる未来をつくる力を育むものとなるように。

豊中市は、文部科学省から「国際教育推進プラン研究指定」を受け、今までの取組みの豊かさとそこへかかわる人の思いをつむぎ、帰国・外国人教育、国際理解教育という教育分野の再構築を始めました。

つながりから

つちかうへ・・・

研究の3つの柱

1. 国際理解教育から未来の地域づくりの担い手育成の教育へ

- ①教職員研修
- ②外国語及び多文化理解・日本語指導教材開発
- ③総合的な学習への持続発展教育（ESD）の導入
- ④リソースを生かす

→教育委員会や学校、教職員の取組み、ESDとよなかの取組みなど

2. 異文化を背景にもつ子どもたちが尊重される地域づくり

- ①不就学にならないための取組み
- ②帰国・渡日児童生徒へのサポート
- ③JSL カリキュラムの研究
- ④帰国・外国人児童生徒支援実務マニュアルの作成

→とよなか国際交流協会、渡日児童生徒相談室、豊中市教育研究会の取組みなど

3. 豊中における「国際」を総合的につなげるシステムづくり

- ①地域リソースの整理
- ②地域の国際教育のネットワークづくり

→豊中市国際教育推進協議会、ESDとよなかの取組みなど

ESDの視点にたった世代間の学び

高校生から中学生、そして小学生へ！ 「自分たちでつくる未来のための授業」

1学期のそれぞれの学びが2学期につながり、お互いの学びを共有していきます。・中学生は高校生から、そして小学生は中学生から地域や世界の諸問題を学び、逆に高校生は中学生から、中学生は小学生から同じ若者として新鮮な視点を学びあいます。これは、「自分たちでつくる未来のための授業」です。未来を開く世代がつどい、知恵を出し合うことで、知と行動を獲得しあう未来を創る連帯感が生まれます。大人とは異なる共感と責任感が生まれるのが特徴です。

大阪教育大学附属高等学校池田校舎

2年生

9月 「持続可能性」を拒む態度・振る舞い制度などを考える

10月 中高協働授業

「ESDを同じ未来世代の中学生と学びあおう」

11月 世界の高校生と考えあう「7カ国高校生国際会議」

→宣言文については11ページ

2月 ESD研究発表会 「持続可能な社会のための提案」

日本の国際教育の最先端を担う大阪教育大学附属高等学校池田校舎では、1年生で世界を意識する学習としてUNESCO・ESDの基礎学習を行い、全員がビデオレポートを作成し、アジア4カ国へ送りました。

そして、2年生の1学期にESDの考え方を深める学習やメディアリテラシーについて学び、リトアニアで開催された国際会議にも参加しました。

第十一中学校

2年生

十一中では、世界の課題に関心を持って興味あることを調べること、学んだことを発信できる力をつけることを目的に異年齢協働学習に取り組みました。

地球のことを自分のこととして考え、自ら動くことができる一人ひとりへ成長するためにも多面的な角度から子どもたちの学びを伸ばす国際教育を目指しています。

9月

平和について学ぶ・調べ学習の上、レポート提出

11月

世界の諸問題をゲストティーチャーから学ぶ

12月

「地球の課題を一緒に考えよう高校生と中学生」
高校生来たる！
高校生による出前授業

1月

小学校へ行こう！ 国際教育出前授業
今まで学習したことにあわせて、高校生から教えてもらったことを小学生に伝えます。

上野小学校

6年生

上野小では、「コミュニケーション力」「交流し発信する力」「確かな学力と自尊感情」など国際社会において地球的視野に立ち主体的に行動するために必要と考えられる態度や力を育てています。

10月

権利の熱気球 ーわたしたちにとって最も大切なものはー

11月

①100人の村ワークショップ

②ニュースから世界を知ろう！

ー世界諸問題はわたしたちの問題ー

③十一中生来たる！ 中学生による出前授業

12月

ゲストティーチャー
滝田先生・門脇先生

「私が暮らした
国から見た日本」
から学んだこと
のまとめと
発表。





豊中

ASPネット7カ国高校生国際共同宣言

—持続可能な社会への提案— 7カ国高校生による共同宣言

平成20年（2008年）11月18日（火）発表

この宣言を、地球上の全てのいのちのために発信します。
 今の社会は、自分のことばかりに専念しすぎています。
 その結果、人は自分と他人との違いを認めることができず、差別・争い・環境破壊などを起こして相手と自然のことを考えようとしないう持続不可能な社会となっています。

しかし、世界は「人と人」とのつながり、「人と社会」とのつながり、そして「人と自然」とのつながりからできていて、それぞれが互いに支えあって成長していくものです。

そこで私たちは、これらのつながりをより豊かにし、全てのいのちが持続可能性を持つ「共通の未来」となるよう、今からまず、「人と人」とのつながりを豊かにする次の行動から始めます。

それらは、

- ・笑顔であいさつをすること
- ・心から「ありがとう」を言うこと
- ・学んだことを伝え広げること

などです。

これらは、人、社会、自然のつながりを豊かにする全てのつながりの第一歩です。

私たちは、これらをまず自分から行動していくことで、未来の担い手である私たちが築く持続可能な社会への第一歩として提言します。

持続発展教育（ESD）を未来へ

人や社会が持続的に発展して未来を開いていくために、豊中市は「つどう」、「つながる」、「つちかう」、そして「未来への行動力」をテーマにESD持続発展教育を進めています。UNESCOは、このような学びを以下のように表現しています。

- Learning to know（知ることを学ぶ）
- Learning to do（なすことを学ぶ）
- Learning to live together（ともに生きることを学ぶ）
- Learning to be（生きることを学ぶ）

「学びあい」からはじめよう ESD

私たちが、誰かにまかせっきりにしなくて、「将来のまちやくらしがよくなればいいな」と思うとき、まず、いろんなことを「学ぶ」ことから始まるでしょう。ただし、「学ぶ」ことは、誰か偉い人から教えてもらわなければならないとか、退屈で難しいことをがまんして聞かないといけないとは限りません。すぐそばの人から教えてもらうということもありますし、大勢の人がいたらいろんな情報が集まります。自分から人に伝えられることもあります。

そんな「学びあい」の中から、一緒に考えたり、力を出し合うことができるようになると思いませんか。「学びあい」のためには、いろんな人がいてもいいし、いろんな人がいた方が可能性が広がると思いませんか。身近なことと遠くの知らないことを結び付ける想像力が可能性を広げると思いませんか。そして、学びあうだけでなく、学びあいから何かをはじめて、はじめたあとより進化するために学びあって、自分たちの未来を一緒に作りましょう。

国連が平成17年（2005年）から始めた「国連持続可能な開発のための教育の10年」というキャンペーンをきっかけに、このような「学びあい」を、豊中でも「ESDとよなか」として進めています。

ESDとよなかでは、すでに豊中のあちこちで行われているこのような取り組みを、もっと広げ、もっと応援するため、いろんな人に役立つ「リソースセンター」を考えてきました。どんなリソースセンターがいいか、これからも「学びあい」の中でつくっていかうと思っています。

ESDとよなか



未来への行動力 豊中型国際教育の提案

「国際教育推進プラン」事業の研究指定を受け、取組みを進めてきた報告と、40年来積み重ねてきた本市国際教育の取組みを踏まえ、豊中型国際教育を発信するため、「豊中市国際教育シンポジウム」を開催

主題

「つどう・つながる・つちかう
未来への行動力・豊中型国際教育の提案」

開催日：平成21年（2009年）1月29日（木）

会場：豊中市立上野小学校

主催：豊中市教育委員会・豊中市国際教育推進協議会

後援：大阪府教育委員会

公開授業：豊中市立上野小学校

4年生 アフガニスタンの子どもたちへ

5年生 外国語体験活動（中国語）

6年生 見つめよう日本 広げよう世界へ

実践発表：豊中市立第十一中学校

「国際教育の取組み」

大阪教育大学附属高等学校池田校舎

「ASPネット 7カ国高校生国際会議の取組み等」

対談：「これからの国際教育で大切にしたいこと

（学校・地域・行政の連携で創りあげるもの）」

対談者

京都造形芸術大学教授・コリア国際学園理事 寺脇 研

豊中市教育委員会教育長 山元行博

対談より

★・・・例えば、アメリカから帰ってきた子がその場にとけこめる教育は、

その子のためだけのことではないということがわかるのです。共生するみんなのための教育なのです・・・

★・・・みんなで戦争をなくしていこう、みんなで環境をよくしていこう、ということを考えるときは「みんな」なのです。ただ、地球市民と言ったって、日本に生まれ育ったその感情というのはあっていいし、自分って何なの？というときに自分のルーツをもつ。自分が窮地にたったときに自分を助けてくれるのはルーツだと思います。いよいよひとりきりになって決断しないといけないときのルーツとなる根っこ。そのための日本文化あるいは豊中の文化というものをきちんとみんなで身につけていく。せっかく豊中で育ったのだから、みんなで豊中の文化や歴史を共有しましょうという点は必要・・・

★・・・多様なものの見方を育てる。多文化共生というと、人と仲よくすることばかりが前面に出ますけれど、多文化共生というのは、多様なものの考え方ができるということなのです。つまり、一つのものを見るときに、一方からだけ見るのではなくて、さまざまな角度から見るができるということなのです。

「国際教育」というのは特別なものではなくて「これこそが教育！」なのです・・・



教育長挨拶

豊中市教育委員会教育長 山元行博

地域リソースを最大限に生かす豊中型国際教育の創造、またESDの視点を取り入れた教育の推進。これらは、国際時代における本市教育の大きな柱の一つです。

豊中型国際教育の創造にかかわるキーワードは、先述しております「地域リソースの活用」はもとより、「よりよい社会へのアプローチ」をはじめ、「ESDの視点に立った世代間の学び」、「持続可能な教育を未来へ」、「異文化を背景にもつ子どもたちが尊重される地域づくり」、「国際理解教育から地域づくりの担い手の育成」、「多文化共生」等々、多岐にわたっています。これらのキーワードを総合的につなげるシステムづくりのため、本市では、「つどい つながるとよなか」そして「つながりから未来への行動力をつちかう」を念頭に置いた国際教育を推進しております。

このような豊中型国際教育を本市教育の基盤の一つに据え、私たちは、教育文化都市・豊中の新たな創造を目指しています。そして、「人を育てる」という教育の原点に立ち戻り、目の前の一人ひとりの子どもの可能性を開花させることを本市教育の第一義と考えております。そのため、学校、家庭、地域の三者が一体となって遠く世界の人々に思いを馳せながら、「隣のひとり」を大切に作る地域づくりを皆様方と推進してまいりたいと考えておりますので今後ともご支援ご理解ご協力をお願い申し上げます。

研究の成果とこれから

1. 「国際理解教育」から未来の地域づくりの担い手育成の教育へ

・小・中・高の校種間連携による世代間の学びの深化をもとめ、今後も取組みを続けるとともに、ESDの視点及びESDとよなかのリソースセンターと学校教育の連携をはかる市内教職員研修を充実させる。

2. 異文化を背景に持つ子どもたちが尊重される地域づくり

・とよなか国際交流協会やESDとよなかをはじめ、学校教育で行う渡日児童生徒相談室、帰国教室、国際教室等の連携による在日外国人や外国にルーツをもつ人々へのサポート事業の充実。
・国際人権文化都市として、行政をはじめ地域で学校で異文化を尊重し、認め合える風土づくり。

3. 豊中における「国際」を総合的につなげるシステムづくり

・事業終了後の研究成果の継承とさらなる発展のため豊中市国際教育関係会議を組織づける。
・国内外のユネスコスクールを活用した交流活動を推進する。
・豊中市国際教育センター構想を視野に入れ、国際教育の拠点化をめざす。

会長挨拶

豊中市国際教育推進協議会会長 中木常雄

夢と希望を胸に、目を輝かせて未来を語る子どもたち。この子どもたちを育てるには、国際教育が不可欠だと考えます。「国際社会において、地球的視野に立ち、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力の基礎を育成する」国際教育は、知識の詰め込みでも、単なる体験だけでも生まれません。広い視野をもち、確かな学力と豊かな人権感覚のもとに、主体的な行動力が求められます。まさに生き方に関わる教育といえるのです。

この素晴らしい地球の住民の一人として、「未来につながる今」を大切にする、「私につながる友」に思いを馳せる、そんな子どもたちを学校、家庭、地域で育てていこうではありませんか。

このシンポジウムが新たな「未来への行動力」につながることを願っています。





豐中市國際教育推進協議会・豐中市教育委員会

